



2020.6.10
第172号

発行
福島県市町村教育連
北会津支部
北会津支部

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

温かみのある対応



会津教育事務所
所長 横山 修

妻から聞いた話です。冬物の衣類を持って会津若松市内のあるクリーニング店に行くと、腰の曲がった老婦人が、持ち込んだ毛布のことで店員と話をしていたそうです。店員は、明日が毛布半額の日なので、明日持ち込めばお得であることを御婦人に伝えているようでした。ところが、御婦人には意味が分かってもらえないらしく、何度も説明し直してしまいました。すると御婦人は、コロナウイルス対策のビニールの下から顔を突っ込み、「今日は、やっってもらえねえのかい」と言います。それでも店員は嫌な顔一つせず、「今日

でもできますが、明日だとこのくらいお得なんです」と曜日と金額を大きく紙に書いて、分かりやすく説明しました。こうしたことを繰り返すうちに、御婦人はようやく理解したようで、「うちはすぐ近くだから明日持ってくる」と言うと、何度もお辞儀をしながら帰って行きました。

妻は、待たされたけれども仕方ないよねと言います。私もそうだなあと思えました。お店としては、その日のうちに毛布を預かって、何の損もありません。それなのに、こうした対応をするのは、時間がかかるけれども、とても温かみの

あることだなと思いました。

この話を聞いて、かつて算数・数学の学校訪問で会津域内を回った時のことを思い出しました。たくさん授業者に助言をさせていただきましたが、全体的な印象は「温かみのある授業者が多い」ということでした。それは、つまずきのある子どもや、課題を抱えた子どもに対する丁寧で親身な対応に起因するものでした。

今回の臨時休業によって、子どもたちの中には大きな変化が生じているものと思われれます。意欲を失ったり不安定になったりしている子どももいるかもしれません。こんな時だからこそ、より一層子どもたちに寄り添い、丁寧で親身な対応をしたいものです。

各学校も、以前のような教育活動ができず、もどかしい思いをしていることと思います。教育事務所としましても、各教育委員会や学校に寄り添い、的確な情報提供や要請に沿った支援に努め、この危機を共に乗り越えて参りたいと思います。

管理関係重点事項

「人間力に満ちた人材の育成」を目指し、学校の適正な管理運営、不祥事根絶、次代の管理職・中堅・若手教員等の育成に向け、域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携を図り、管理業務を推進してまいります。

1 教職員の勤務の適正化と多忙化解消に向けた取組を推進します。

○ 学校課題の解決が図られるよう、市町村教育委員会との連携を密にした人事事務を推進します。

○ 教職員の「働き方改革」の推進に向け、報告文書や各種調査の精選・簡略化を図り、教職員の業務改善意識の向上と長時間勤務の削減に努めます。

2 服務倫理委員会の活性化を促すための研修会の充実を図り、不祥事防止に努めます。

○ 教職員一人一人の当事者意識や倫理観の高揚を図るため、「信頼される学校づくりを職場の力で」等を継続して活用していきます。

3 管理職の実践的な学校経営マネジメント力の向上を図るための会議の充実を図ります。

○ 校長会や教頭会、学校訪問等で情報提供や必要に応じた指導・助言を行います。

○ 学校訪問や研修会等を通して、組織マネジメント能力の向上に努めます。

会津教育事務所では、校長のマネジメント力が遺憾なく発揮され、教職員一人一人がやりがいをもって教育活動にあたり、保護者・地域から信頼される学校づくりのお手伝いをしてまいります。

社会教育関係重点事項

【重点1】地域と学校の連携・協働の推進

社会教育においては、「地域と学校の連携・協働の推進」を重点とし、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて取り組んでまいります。

「社会に開かれた教育課程」では、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という理念が示されました。これからの学校は、地域から支援を受けるだけでなく地域に貢献し、地域を元気にしていく取組や活動がより一層求められます。会津教育事務所として、以下のことに取り組みます。

- ① 学校訪問による管理職との話し合い（地域との連携・協働に関すること）
- ② 地域と共にある学校づくり実践紹介だより「連携・協働のカタチ」の発行
- ③ 地域貢献に視点を当てたプログラムによる「地域連携担当教職員等研修会」の充実
- ④ 研修講師等の要請の積極的な受け入れ

【重点2】家庭教育の推進 ～メディアコントロール(特にSNSとの付き合い方)～

域内の家庭教育について協議する地域家庭教育推進会津ブロック会議では、メディアコントロールの推進をテーマに、特にSNSとの付き合い方について協議を進めております。課題となっているのは、メディアコントロールの啓発のあり方です。多くの保護者が集まる機会に、短時間に、関心を高め、意識付けを図るにはどうしたらよいか。そのための一つの方策として、今年度は、短時間に、簡単にできる「スマホ検定」の実施を検討しております。

なお、平成27年に作成した「メディアと上手に付き合う子どもを育てましょう！」3つの提言の裏面に、家庭用メディア環境チェックリストを掲載してありますので御活用ください。(会津教育事務所HPからダウンロードできます。)

これからの教育課程の理念
 “よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”



新しい時代に求められる資質・能力を育む
 『社会に開かれた教育課程』

令和2年度 会津教育事務所 指導の重点

会津の強み 【令和元年度学校訪問から】

- 1 子どもたちの興味・関心を高め、思いや問いを引き出して、「めあて」を設定する授業が多く見られる。
- 2 ねらいを達成させるために、児童生徒の思考の時間を確保し、様々な言語活動やICT機器等も活用しながら、考えを広め深める授業が増えてきた。
- 3 学級担任を中心に学校ぐるみで不登校の未然防止、及び将来的な社会的自立を目指した心温まる指導が行われている。

- 会津の課題**
- 1 全国学力・学習状況調査結果が全国平均正答率を下回っている。【特に中学校英語】
 - 2 不登校児童生徒が年々増加している。

目標1 授業等での学習内容の定着

目標2 不登校児童生徒の未然防止

- 指導の重点**
- 1 まとめ・振り返りの時間を確実に確保する。
 - 2 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。
 - 3 授業と家庭学習を連動させる。

- 指導の重点**
- 4 教師と児童生徒の望ましい人間関係を構築する。
 - 5 安心感のある学校・学級づくりを推進する。

1 まとめ・振り返りの時間を確実に確保する。

- ① 毎時間、5～10分間を確保するように心がける。
- ② 「何を学習したか」を明確にする。
 - ア 振り返る視点（キーワード）を子どもに示す。
 - イ 自分の言葉でまとめる時間を確保する。
 - ウ 学習した内容を生かす活動場面を設定する。

4 教師と児童生徒の望ましい人間関係を構築する。

- ① 明るく表情豊かで、一人一人の子どもたちを大切に、情熱をもって指導する。
- ② 子どもたちのよいところを積極的にほめる。
- ③ 1日1回、全員の子どもの声に声をかける。
- ④ 子どもの小さな頑張りを保護者に伝える。

2 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。

- ① 「ねらい」を明確にする。
 - ア 子ども学習履歴やつまづきの原因を把握する。
 - イ 単元全体や本時で身に付けさせたい力を明確にする。
 - ウ 本時の「ねらい」が達成された具体的な子どもの姿をイメージする。
 - エ 子ども間の思いや問いを引き出し、明確に意識できる「めあて」を提示する。
- ② 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。
 - ア 本時で身に付けさせたいことをまとめる。
 - イ 「ねらい」に合った適用問題等に取り組む。
 - ウ 「ねらい」と「まとめ」の観点別評価を合わせる。

5 安心感のある学校・学級づくりを推進する。

- ① 特別活動
 - ア 一人一人に役割をもたせ、認め、称賛する。(居場所づくり)
 - イ 係活動や委員会活動等で、自主的・実践的な活動を大切に
 - ウ 子ども同士でよいところを認め合う機会をつくる。(絆づくり)
- ② 道徳教育
 - ア 読み取りから脱却し、自分のこととして考える場を設定する。
 - イ 他者の意見を基に、様々な視点から考える場を設定する。
- ③ いじめ防止
 - ア 早期発見、早期解決に努める。
 - イ 教職員が連携し合って、様々な立場から子どもを見守る。
 - ウ 認知ゼロから見逃しゼロへ。

3 授業と家庭学習を連動させる。

- ① 授業で学習した内容の定着や活用を図るための家庭学習について指導する。
- ② 授業で「分からなかったこと」や「新しい問い」を家庭学習で調べさせる。
- ③ 家庭学習の内容を授業の導入段階で取り上げる。

※現在、不登校となっている子どもたちへは、引き続き社会での自立に向けた心温まる指導をお願いします。



「ほろ苦い思い出」

三島町教育委員会教育長 佐藤 孝信

「先生、しばらくです!!」

突然、教育長室に40歳代後半と思われる男性が役場の職員とともに顔を出した。「??? 誰だか思い出せない」「ほらお世話になった僕ですよ」じっと彼の表情を見ていると、見覚えがある顔だ。そうだ「〇〇中に勤めていた時の〇〇君ですか」と、恐る恐る尋ねると「そうですよ」との返答。「よかった」そして、しばし彼と中学校時代の思い出話を花を咲かせた。私に叱られていたことが大変印象に残っているらしく「当時は怖かった」と何度も言葉に出た。

今は上下水道運営会社で責任のある職についているようで言葉遣いや相手を気遣う仕草にも社会人としての自覚を感じさせるものがあった。成長し活躍している姿が見られてホッとして温かい気持ちになった。すると若い

教諭時代の苦い思いが蘇ってきた。

部活動の指導に夢中になり、とにかく怒ることが多かった。厳しい練習を課し、よい成績を残すことが教師としての役目だと思っていたからだ。

そんな時、2か月入院する病気になった。入院中は生徒たちとのことを考えたり、必死に病と闘う若い人たちとも出会ったりしてその姿勢に感動することもあった。

退院後、相変わらず部活動指導に夢中になったが、何か自分の中で変わってきたと感ずることができた。生徒一人ひとりの個性や考えにも気を配ることが多くなった。「生徒に伸び伸びと活動させるにはどうしたら」との視点で指導にあたることができるようになった。

そんなことを思い出し恥づかしくなった。頭から決めつけしないで、「考えを引き出し、尊重する」。これからは、仕事をしていく中でも大切にしていこうと肝に銘じた。

我がまちからの情報発信

猪苗代町教育委員会

猪苗代町・東京学芸大学連携事業

～人をつくる。そして、まちをつくる。～

猪苗代町では、平成28年6月27日に東京学芸大学と地域連携に関する協定を結び、教育の充実及び発展を推進しているところです。

これまでの取組として、東京学芸大学の教授や東京学芸大附属小学校の教諭を招いての授業研究会や学生の教育ボランティア、学芸大教授を特別講師として招いての放課後子ども教室の実施、また、「学びーなであそびーな」、「ウォールアートフェスティバル」の開催にあたり、教授、学生に協力をいただき地域との交流を図ってまいりました。

年に3回実施している授業研究会は町内からだけでなく県内から100名を超える先生方が参観に訪れ、授業ス



キルアップや授業コーディネートの仕方等を学ぶことができ、特色ある教育推進に向けて取り組んでいるところです。

年に2回実施する学生による教育ボランティアについては、学生ならではの視点による学習補助を行うことによって、子どもたちにとって大きな学びにつながっており、先生方からは新しい風が年に2回吹くと言われております。

また、学生からは「実際に授業を見て学習することに加え、子どもと一緒に過ごすことの楽しさを学ぶことができるので、とても感謝している」との感想をいただいています。

その他にも、昨年度は体験型のプログラミング教育研究会を行いました。さらに、今年度は東京学芸大附属小学校の教諭を招いて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて体育授業研究会を実施します。

猪苗代町・東京学芸大学連携事業を通して、幼児教育から成人教育までの一貫した教育モデルを構築していきたいと考えています。



令和2年度 会津教育事務所推進プラン

【域内の現状(強み・弱み)】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちは素直であり、学習意欲が高い。 ○ 各学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組が顕著である。 ○ 学校生活の中で、子どものよい点や可能性を見だし褒めるなどの取組を積極的に行っている。 ○ 各市町村の社会教育が充実している。 ○ 地域学校協働活動や学校支援活動のモデルとなるよい取組が見られる。 ○ 特別支援学級・通級指導教室における自立活動の指導の充実が顕著である。 ○ 運動身体づくりプログラムの全校実施など、組織的な取組により、体力向上が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校ともに、学力調査の平均正答率が低く、特に活用に関する問題を苦手としている。 ・ 不登校児童生徒数が小学校で増加傾向にあり、小中の出現率が県内で最も高い。 ・ 学校教育と社会教育の連携協力体制の整備を推進する必要がある。 ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を整備する必要がある。 ・ 肥満傾向児出現率が高く、改善傾向が見られない。 ・ 不祥事根絶や多忙化解消に対する意識の個人差が大きい。 ・ 教職員の不祥事が続いている。

人間力に満ちた人材の育成 ～学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育～

〈推進ビジョン〉

域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、人間力に満ちた人材の育成に努めます。

※人間力に満ちた人材…学習や経験から学んだ様々な力を生かして、自らの道を切りひらき、社会に貢献することのできる人材

視点① 学力の向上

- 授業改善のための指導の重点を前期・後期に作成し、それらを活用して授業の充実に努めます。
- 学校のニーズに応じた要請訪問の実現や、「ステップアップ『Aizu』」を工夫し、教師の自己研鑽の場を充実させます。
- 全国や県の学力調査を活用するための資料を作成し、個に応じた指導を充実させます。

視点② 人間性・社会性の育成

- 不登校に関するリーフレットを作成し、訪問時に活用して、適切な未然防止・初期対応を推進します。
- 「理解シート」「援助チームシート」を生かし、悩みを抱えた(支援が必要な)児童生徒への組織的な援助を充実させます。
- 魅力的で多様な道徳・特別活動の授業が展開できるような支援をします。

視点③ 健康・安全な習慣づくり

- 各校の体力向上推進計画の見直しを図り、計画の有効性や実効性を検証します。
- 学校保健委員会の内容について検証し、効果的な取組を紹介するなど、健康教育の充実に支援します。
- ICTや外部講師を取り入れた先進校の活動を紹介するなど、保健・安全指導の充実に支援します。

視点④ 地域と学校の連携・協働の推進

- 学校訪問における話合い、実践紹介日より『連携・協働のカ・タ・チ』の発行等、学校・社会教育関係者への積極的な普及啓発、理解促進に努めます。
- 地域貢献に視点を当てた講演、実践発表等を取り入れ、「地域連携担当教職員等研修会」の充実に努めます。
- 研修の講師等の要請を積極的に受け入れます。

視点⑤ 切れ目のない支援体制の整備

- 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制整備を推進するために、個別の教育支援計画を活用した連携や、通常の学級に在籍する児童生徒の理解等に関する研修を支援します。
- 市町村教育委員会が主体的に支援体制整備を推進できるように、研修支援や関係機関との連携強化への支援をします。

視点⑥ 信頼される学校づくり

- 教職員の勤務の適正化と多忙化解消に向けた取組を推進します。
- 服務倫理委員会の活性化を促すための研修会の充実を図り、不祥事防止に努めます。
- 管理職の実践的な学校経営マネジメント力の向上を図るための会議の充実を図ります。